

C-65 モアレ法による衣服間隙量の測定
日本女大家政 樋口ゆき子 ○内藤裕子

目的 衣服におけるゆとり量を、着用した状態で正確にとらえる事は非常に難しい。そこで格子投影法のモアレ法により人体モアレの等高線写真を撮影し、各部位別縦横断面に示される間隙量によってゆとり量の変化を比較検討した。

方法 被験者(若年女子標準体型)3名を選び、マルチン法によって測定した。次に配分の異なるA・B二方式による胸部原型から、胸囲・腰囲の全体のゆとり量を等しくとり体型に適合させるための補正を行なったブラウスを作成し実験用衣服とする。材料は綿ブロードを用いた。静止時の写真と二つの動作時の写真を撮り、その写真より求める位置の縦断面・横断面図をそれぞれ作成比較することにより、各方式パターンのゆとりの量と配分関係をみた。

- 結果 ① 着衣状態の縦横断面図をモアレ写真により正確にとらえることができた。
② 胸部原型の人体との間隙量は、配分によってまわり全般がほぼ等しくなるものと、背面が多くなる傾向が見出せた。